

年末年始は医療機関の休診が多くなります。全旅連よりお送りした「旅館ホテルにおける新型コロナウイルス感染症防止対策マニュアル」（全旅連公式 HP「宿ネット」組合員専用ページに掲載 URL：<http://www.yadonet.ne.jp/info/member/index.html>）も参考にして感染症対策を再度徹底しましょう。

感染対策の徹底 ・こまめな手洗いや手指消毒 ・常時マスクの着用（咳エチケット）
・複数の人の手が触れる場所を定期的に消毒（及び触れた後の手洗い）。

健康状態の確認と注意

- ・体温測定（ 37.5°C 以上の発熱）
- ・体調不良等（発熱、咳、咽頭痛、倦怠感、呼吸困難、嗅覚、味覚障害等）

3密を避ける

「換気の悪い密閉空間」は新型コロナウイルス感染症のリスク要因の一つに過ぎず、一人あたりの必要換気量を満たすだけで、感染を確実に予防できるわけではなく、人が密集した空間や密接な接触を避ける措置を併せて実施する必要があります。

密閉対策 冬場の換気（窓の開放）の留意点

- ・居室の温度および相対湿度を 18°C 以上かつ 40%以上に維持できる範囲内で、暖房器具を使用しながら、一方向の窓を常時開けて連続的に換気を行う。 ※ 加湿器の併用も有効。
- ・居室の温度および相対湿度を 18°C 以上かつ 40%以上に維持しようとする、窓を十分に開けられない場合は、窓からの換気と併せて、可搬式の空気清浄機を併用する。

（参考）厚生労働省「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000618969.pdf>

厚生労働省冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法

<https://www.mhlw.go.jp/content/000698868.pdf>

密集・密接対策

- ・従業員と宿泊客及び宿泊客同士の接触をできるだけ避け、対人距離はできるだけ1m以上を確保。
- ・ロビー（チェックイン・アウト）大浴場、食事処・レストラン等、多くの宿泊客が同時に利用する場所の対策（人数制限、滞在時間の短縮化、利用法の管理、等）。
- ・お酌や盃の回し飲み、スプーンや箸等の食器の共有は控えることや、静かな会食のお願い。

（参考）厚生労働省 感染リスクが高まる「5つの場面」

https://corona.go.jp/proposal/pdf/5scenes_20201117.pdf

感染が疑われる場合

（宿泊客、従業員）発熱や軽度であっても咳・咽頭痛、けん怠感などの症状がある人は申し出るように呼びかける。申し出があった場合は、同意を得た上で、速やかに近隣の医療機関や受診・相談センターへ連絡し、その指示に従う。

年末年始は、多くの医療機関が休診となります。開いている近隣の医療機関や受診・相談センターの連絡先や受付時間（夜間を含む。）を必ず確認しましょう。